

# 次世代建材補助事業対応【潜熱蓄熱建材:進入日射熱利用】 蓄熱シート 設計・施工マニュアル

対象製品	会社名 : 株式会社 カネカ 製品名 : パッサーモシート
------	----------------------------------

## ●パッサーモシートの種類・規格

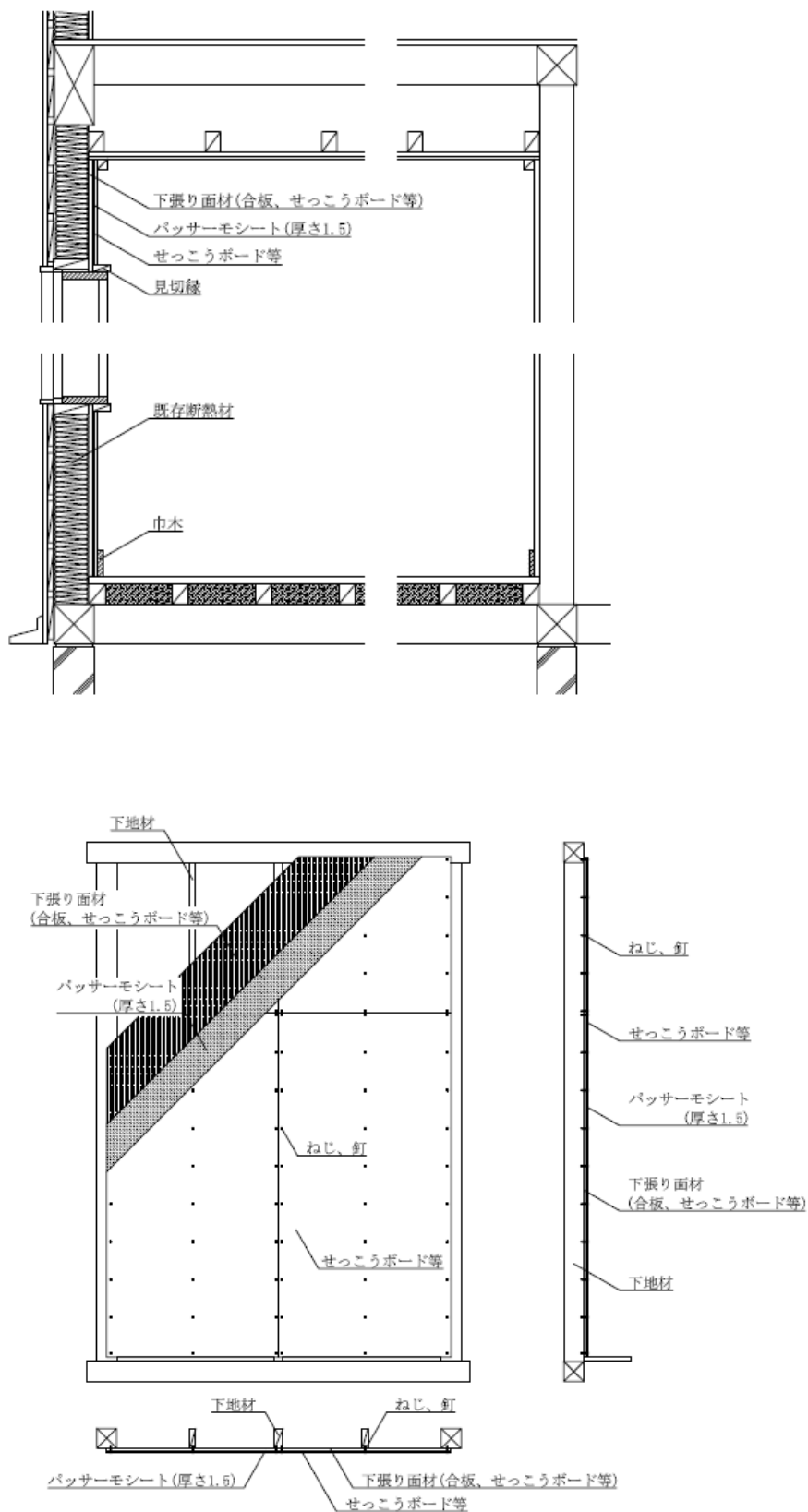
種類	寸法規格			参考
	厚さ	幅	長さ	重さ
SK 25	1.5	455	910	約570g/枚

## ●設計項目、施工項目

項目		内容	備考
設計項目	蓄熱量	100 kJ/m <sup>2</sup> 以上	JSTM 0 6101
	潜熱量	45 kJ/m <sup>2</sup> 以上	JSTM 0 6101
	製品の厚さ	1.5mm	重ね合わせは不可 (段差が出来るため)
	利用方法	開口部からの侵入日射熱利用 ①真南±30° の方位に面する集熱開口部の面積が、対象室の床面積の10%以上であること ②蓄熱シートの施工面積が、対象室の床面積の2倍以上であること(※1)	(※1)2倍の根拠 蓄熱量は対象室の床面積1m <sup>2</sup> あたり192kJ以上必要。これに対し製品の蓄熱量は100kJ/m <sup>2</sup> であるので、 192÷100=1.92 ⇒床面積の2倍以上にすればOK
	対象室の断熱	平成11年省エネ基準以上の断熱が確保されていること	
施工項目	製品の施工部位	壁	
	施工納まり図	施工納まり図(例)参照	
	蓄熱機能を失う施工注意喚起	施工手順・施工方法参照	

● 施工範囲  
・ 居室等の壁

● 施工納まり図(例)



## ● 施工手順・施工方法

既存壁材を撤去せず、そのまま蓄熱シート(パッサーモシート)を施工して、更にあらたな下地材(石膏ボード等)をこの上に施工することを前提にしています。

### ①改修工事部分の既設物の撤去

- ・巾木や廻り縁を取り外します。
- ・また、必要に応じて、電気スイッチやコンセントカバーボックス、室内ドア等を取り外します。
- ・これらを再利用する場合は、一時的に保管します。

### ②下地間柱位置の確認

- ・下地センサー等の器具を利用して、間柱の位置をあらかじめ確認しておきます。あらたに付加する下地材(石膏ボード等)をこの間柱にビス止めするためです。

### ③窓廻り等の見切り材の取り付け

- ・必要に応じて、窓廻り、ドア周りに見切り材を取り付けます。  
見切り材の厚さは、蓄熱シート厚さ+石膏ボード等厚さ+10mm前後を目処とします。

### ④蓄熱シートの施工

- ・既存壁の上に、タッカーやビスを用いて蓄熱シートを取り付けます。
- ・蓄熱シートの目地と石膏ボード等の目地が重ならないように配置します。
- ・蓄熱シートの切断はカッター等を用いて行います。
- ・蓄熱シートを重ね合わせて施工することはできません。シートのシートの目地が多少(2~3mm)空いても構いませんので、重ねることは避けてください。

### ⑤石膏ボード等の施工

- ・蓄熱シートの上から石膏ボード等を間柱に向かってビスどめします。  
ビスは、下地(既存間柱への)打ち込み深さが15mm以上となるような製品を使用します。
- ・石膏ボードの場合、留めつけ間隔は周辺部が100~150mm程度、中間部が150~200mm程度とします。  
その他の下地材や仕上げ材を使用する場合は、各材料の施工仕様書等を参照して下さい。

### ⑤復旧工事

- ・巾木や周り縁を取り付けます。
- ・また、電気スイッチやコンセントカバーボックス、室内ドア等を元に戻します。
- ・必要に応じて、表面仕上げ工事を行います。

## ●蓄熱シート(パッサーモシート)の 使用上・取り扱い上の注意事項

### ・火気注意

パッサーモシートは指定可燃物に該当します。

火気に接すると燃えます。従って、輸送、保管、施工に際しては、火気に充分注意するとともに適切に養生してください。特に付近で、溶接、溶断を行なう際は、火花等があたらない様に確実に養生してください。

### ・溶剤注意

有機溶剤、石油類には侵されますので、直接またはこれらの蒸気が触れないように注意してください。

### ・高温注意

使用温度は60℃以下です。60℃を超えると除々に変形しますので、60℃以上の使用は避けてください。

### ・取り扱いは丁寧に

製品を落下させたり、投げ出したりすると、製品が変形する恐れがあります。取り扱いは丁寧にしてください。

また、製品に強い衝撃を与えたり、鋭利な物で力を加えたりしないでください。

### ・廃棄

廃棄に関しては、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」第2条4の産業廃棄物として処理してください。

### ・ホルムアルデヒド告示対象建材ではありません

ホルムアルデヒド告示対象建材ではありませんが、JIS A 1901の放散試験により、この附属書に記載されている対象物質(ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、p-ジクロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン、テトラデカン)の放散速度を測定した結果、ガイドライン値を大幅に下回るか不検出であることを確認しています。

株式会社 カネカ

Foam & Residential Techs Solutions Vehicle

PCM事業化チーム